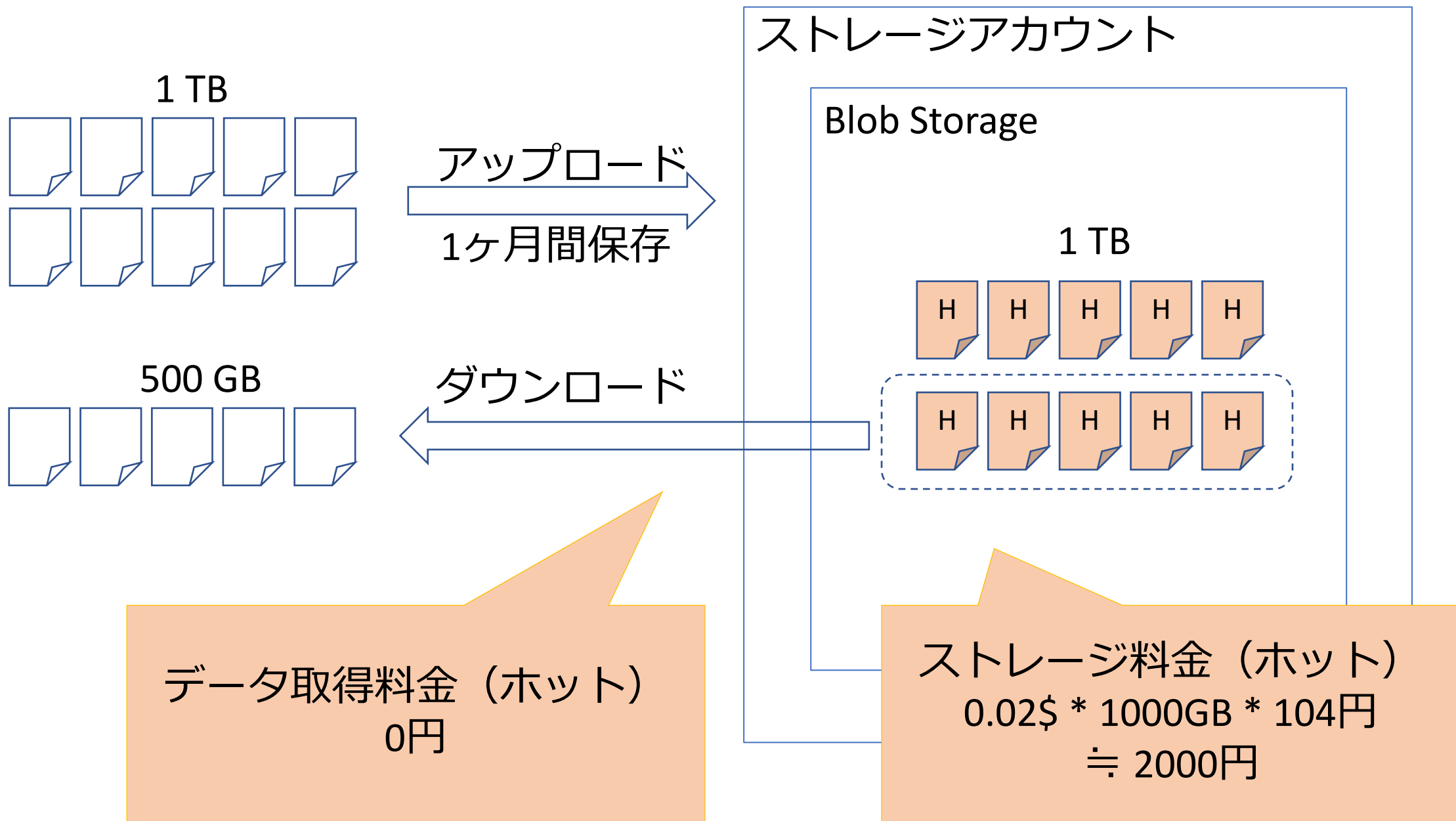


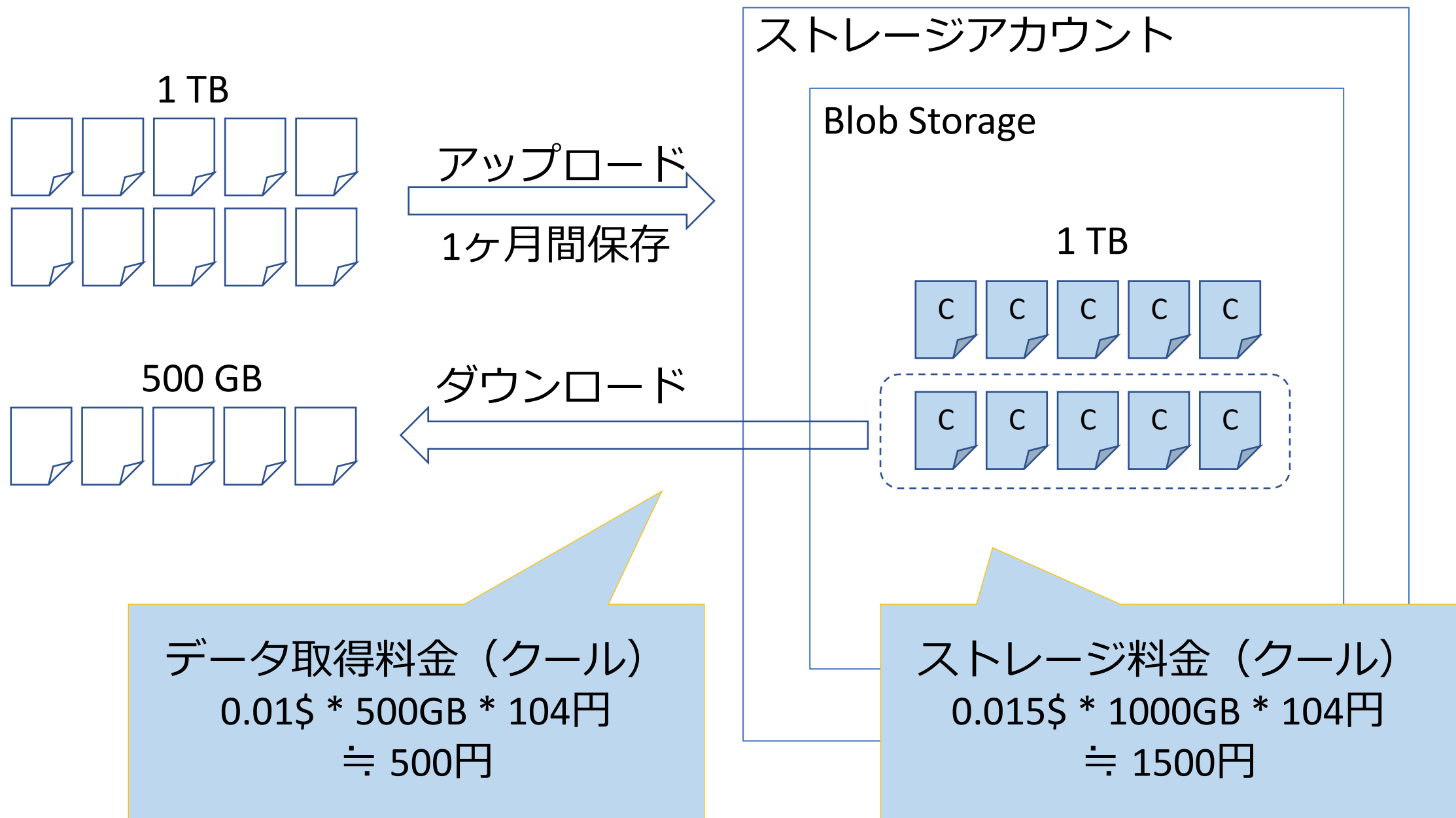
「アクセス層」： ホットとクールの利用例

- シナリオ：
 - 1TBのファイルをストレージアカウントにアップロードし、1ヶ月保存
 - その半分の500GBをダウンロード
- ここでは、ストレージアカウントの料金のみ考慮
 - 実際には「帯域幅」料金も必要
 - データ転送（外部→Azure）：無料
 - エグレス（Azure→外部）：有料

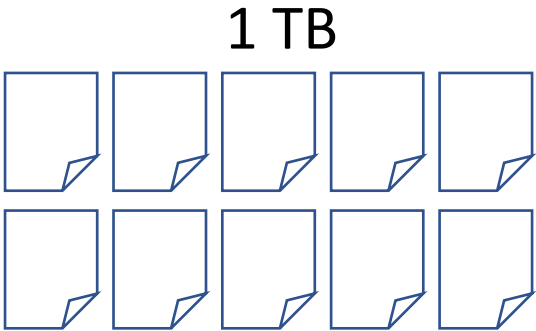
すべて「ホット」で保存した場合: 2000円



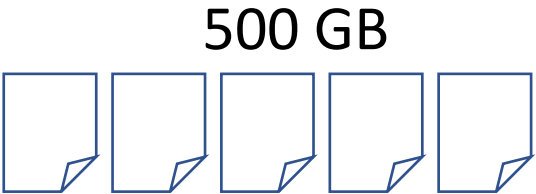
すべて「コールド」で保存した場合: 2000円



ダウンロードされるファイルを「ホット」、
その他を「コールド」で保存した場合：1750円



アップロード
1ヶ月間保存



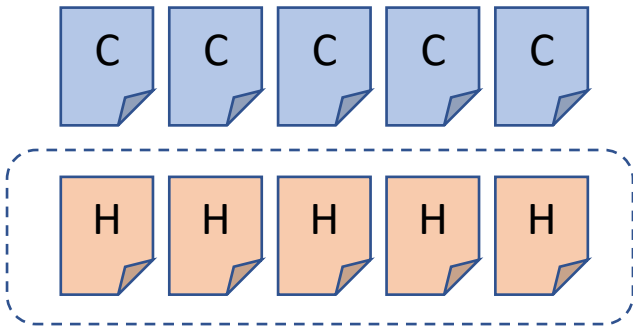
ダウンロード

ストレージ

Blob S

ストレージ料金（クール）
 $0.015\$ * 500\text{GB} * 104\text{円}$
 $\doteq 750\text{円}$

1 TB



データ取得料金（ホット）
0円

ストレージ料金（ホット）
 $0.02\$ * 500\text{GB} * 104\text{円}$
 $\doteq 1000\text{円}$

結論

- Blobの「アクセス層」を「ホット」から「クール」にすると
 - 「ストレージ料金」を節約できる（ホットの約3/4）
 - 「データ取得料金」が発生する（GBあたり約1円）
- 「クール」に設定することで「ストレージ料金」を節約できるが、ダウンロードが多すぎると「データ取得料金」がかさんでしまう
 - 目安として、すべてクールで保存し、アップロード総量の半分以上ダウンロードすると、すべてホットで保存した場合よりコストがかかる
- トータルコストを節約するには
 - 頻繁にダウンロードされるファイルはホットに設定
 - あまりダウンロードされないファイルはクールに設定すると、